

高校公民プリント（過去問類似）

源流思想と宗教 No.1

名前

得点

/10

問1 ある中国の思想家は、人為的な道徳や制度は人間の私的な欲望を増大させ、争いを生む原因であると考えた。この思想家が提唱した、作為を排除して宇宙の根源である「道（タオ）」に従い、あるがままの素朴な生き方に立ち返るべきだとする思想を何というか。（2012年 全国公立入試 類似）

1. 徳治主義 2. 無為自然 3. 法治主義 4. 兼愛非攻

問2 中国の戦国時代において、人間は利己的な存在であるという性悪説の立場を継承し、君主が国家を統治するためには、主観的な道徳や礼儀ではなく、厳格な賞罰を伴う客観的なルールと、臣下を統御する技術を用いるべきであると主張して、法家思想を大成した人物は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 公孫竜 2. 呂不韋 3. 韓非子 4. 申不害

問3 大乘仏教において、自己の救済（自利）にとどまらず、他者の救済（利他）を優先する「菩薩」の生き方が理想とされた。この菩薩が、生きとし生けるものに樂を与え、その苦しみを取り除くために抱く、仏教における普遍的な愛の精神を何というか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 無常 2. 解脱 3. 慈悲 4. 中道

問4 古代ギリシアの哲学者である人物Aは、著作『パイドロス』において、文字で書かれた言葉は自ら弁明することができず誤解を招きやすいという限界を指摘した。これに対して、生きた人間同士が直接交わす言論こそが、相手の魂に直接植え付けられ、真の知識をもたらすと考えた。この人物Aは誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. パイドン 2. ピュロン 3. プラトン 4. クリトン

問5 王陽明が説いた、人間が生まれながらに持つ道徳的判断力を、私欲に妨げられることなく日常生活の行為において全面的に発揮・実践することを何というか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 良知説 2. 知行説 3. 心即理 4. 致良知

問6 ユダヤ教の律法に由来し、キリスト教の創始者によって「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」という教えにまで徹底された、民族や敵味方の区別のない無条件・無限の愛を意味する、キリスト教倫理の核心となる概念は何か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 隣人愛 2. 予定説 3. 終末論 4. 兄弟愛

問7 儒教の祖とされる思想家は、弟子から「生涯にわたって実践すべき一言はあるか」と問われた際、「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」という言葉を用いて、他者の立場に立ってその心を推し量る思いやりのあり方を説いた。この、生涯を通じて貫くべきとされる思いやりの精神を指す漢字一字の概念は何か。（2013年 全国公立入試 類似）

1. 仁 2. 礼 3. 義 4. 恕

問8 イスラームにおいて、唯一神アッラーや預言者などの具象的な姿を描くことが厳格に禁じられた結果、モスクなどの礼拝所を飾るために発達した、植物の茎や葉、幾何学模様などをモチーフにした複雑な装飾文様を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. アラバスク 2. ムカルナス 3. モザイク 4. ミニチュール

問9 初期仏教において、世俗の家庭にとどまりながら教えを信奉する人々に対して、不殺生（生きものを殺さない）、不偷盗（盗みを働かない）、不邪淫（不道徳な性交渉を行わない）、不妄語（嘘をつかない）、不飲酒（酒を飲まない）という、日常生活の中で遵守すべき5つの基本的な道徳的規範が示された。この規範を何というか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 五戒 2. 十善 3. 十戒 4. 八戒

問10 プラトンは人間の魂を三つの部分に分け、それぞれが適切な徳を備えることで魂全体の調和（正義）がもたらされると考えた。このうち、頭脳の働きである「理性」の指導に従い、適切な教育を受けることで「勇気」の徳へと高められる、胸に宿る怒りや意志の働きに対応する魂の部分は何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 気概 2. 理知 3. 欲望 4. 理性

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 2 無為自然	老子や荘子に代表される道家思想の根本的な概念である。儒家が重んじる仁義などの人為的な道徳（作為）を否定し、宇宙の根源的なあり方である「道（タオ）」に従って、作為のないあるがままの状態で生きることを理想とした。
問2	答え 3 韓非子	人間は本質的に利己的な存在であるという荀子の性悪説を前提とし、社会秩序の維持には道徳ではなく、客観的な基準である「法」と、君主が臣下を操るための「術」が必要であると説いた。この思想は、のちに秦の始皇帝による中央集権体制の確立に大きな影響を与えた。
問3	答え 3 慈悲	大乘仏教では、自らの解脱のみを追求するあり方を批判し、すべての衆生を救おうとする菩薩の姿勢が強調された。この菩薩の利他行の根底にあるのが、衆生に楽を与える「慈」と、衆生の苦を取り除く「悲」を合わせた精神である。
問4	答え 3 プラトン	『パイドロス』において、文字（書かれた言葉）の限界を指摘し、対話（問答法）を通じて魂に真理を植え付けることの重要性を説いたのはプラトンである。彼は師ソクラテスの対話の姿勢を継承し、対話篇という形式で多くの著作を残した。
問5	答え 4 致良知	孟子が説いた、学習を必要としない先天的道徳心を心の本体と位置づけ、それを私欲によって曇らせることなく、実際の行動において完全に実現することを指す。
問6	答え 1 隣人愛	キリスト教の創始者であるイエスは、ユダヤ教の「隣人を自分のように愛しなさい」という律法を継承しつつ、その「隣人」の範囲を敵にまで広げた。彼は「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と説くことで、自己を迫害する者をも包み込む、分け隔てのない無条件・無限の愛の原理を示した。
問7	答え 4 恕	孔子は『論語』において、自分が望まないことを他人に強制しないという、他者を思いやる精神を重視し、これを生涯行うべき道とした。この精神は、儒教における人間関係の基本となる重要な道徳概念である。
問8	答え 1 アラベスク	イスラームでは偶像崇拝が厳格に禁止されているため、キリスト教の聖画や仏教の仏像のような神仏の具象表現が発達しなかった。その代わりに、無限に広がる神の創造性を象徴するものとして、幾何学模様や植物文様、アラビア文字を組み合わせたアラベスクと呼ばれる独自の装飾美術が高度に発達した。
問9	答え 1 五戒	仏教において、出家せずに世俗で生活する信者（在家信者）が守るべき基本的な5つの行動規範を五戒という。これらは日常生活における道徳的な自己規律であり、世俗を離れて修行に専念する出家信者に課せられたより多くの厳格な規則（具足戒など）とは区別される。
問10	答え 1 気概	プラトンは魂を理性、気概、欲望の三つに分類した。このうち、怒りや意志の座である「気概」は、理性の指導に従うことで「勇気」の徳を実現し、国家における防衛者（軍人）の階級に対応するとされた。

高校公民プリント（過去問類似）

源流思想と宗教 No.2

名前

得点

/10

問1 古代キリスト教の教父アウグスティヌスは、人間はアダム以来の原罪を背負っているため、自らの意志や善行によって救われることはなく、ただ神から一方的に与えられる無償の愛によってのみ救われると説いた。この無償の愛を指すキリスト教思想上の言葉は何か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 神の意志 2. 神の恩寵 3. 神の摂理 4. 神の啓示

問2 唐の時代に陸路でインドへ渡り、無著や世親によって大成された、万物はただ心の働きが創り出したものにすぎないとする仏教思想の経典を中国へと持ち帰り、その漢訳と普及に努めた僧侶は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 慧遠 2. 法顕 3. 玄奘 4. 義浄

問3 パウロは、人間は自らの力では律法を完全に守ることができない罪深い存在であると考えた。彼は、人間が救われて神から「正しい者」とされるのは、律法の遵守によるのではなく、イエス・キリストの十字架による贖罪を受け入れることによってのみ可能であると説いた。このパウロの思想を何と呼ぶか。 (2018年 全国公立入試 類似)

1. 信仰義認 2. 二重予定 3. 万人祭司 4. 聖書主義

問4 古代ギリシアの哲学者プラトンは、人間が正しい行為を行えない原因を、精神を構成する諸要素の不調和に求めた。彼が、真理を認識する部分が意志や肉体的欲求を統御できなくなった状態として説明した、人間の精神を3つの領域に分ける説を何というか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 万物の尺度 2. 魂の三分説 3. 洞窟の比喻 4. 万物の根源

問5 中国古代の思想家である荘子は、人為的な道徳や社会的地位などの世俗的な価値観から離れ、自己の心身の束縛を忘れて大自然と一体化することを説いた。このように、あらゆる対立や執着を超越し、何ものにも囚われない精神の絶対的な自由を得る境地を何と呼ぶか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 齊物論 2. 大宗師 3. 逍遙遊 4. 養生主

問6 初期キリスト教の伝道者パウロが唱えた思想で、人間は自らの力で律法を完全に実行することはできず、律法によっては自らの罪を自覚することしかできないため、イエス・キリストの十字架による贖いを信じることによってのみ神から正しい者と認められるとする考え方を何というか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 万人祭司 2. 三位一体 3. 聖書主義 4. 信仰義認

問7 キリスト教の救済観において、人類が背負う根源的な罪を贖うために自ら十字架にかかって死に、ユダヤ教の過越祭における生贄の羊にたとえて「神の小羊」とも称される、キリスト教の創始者は誰か。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. ブッダ 2. パウロ 3. イエス 4. モーセ

問8 人間は、科学的知識や技術を用いて自然を支配するだけでなく、目に見えない超越的な存在に対して畏敬の念を抱き、神に祈りをささげるといった宗教的な営みを行ってきた。このような営みの中に人間の本質やあり方を見出す人間観を、ラテン語で何と呼ぶか。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. ホモ・シンボリック 2. ホモ・レリギオース 3. ホモ・エコノミクス 4. ホモ・ルーデンス

問9 墨子が唱えた思想において、儒家が説く親族への愛のような段階的な愛を差別的なものとして否定し、自他の区別なくすべての人を平等に愛すべきであるとする主張を何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 兼愛 2. 非攻 3. 仁政 4. 法治

問10 儒家が主張する仁や義などの道徳を人為的な偽りであると批判し、作為を排して宇宙の根本原理であるありのままのあり方に従うことで、真の生き方が得られるとする、道家の祖とされる思想家が提示した根本的な生き方の態度を何というか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. 王道政治 2. 兼愛非攻 3. 無為自然 4. 合従連衡

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 2 神の恩寵	アウグスティヌスは、人間の自由意志や善行による救済を主張するペラギウス派を異端として退け、人間は原罪ゆえに自力では救われず、ただ神の無償の愛（恩寵）によってのみ救済されるという恩寵論を唱えた。
問2	答え 3 玄奘	唐代の僧である彼は、仏教の真理を求めて陸路でインド（ヴァルダナ朝）のナーランダール僧院などに留学した。帰国後、無著や世親が大成した唯識思想の経典をはじめとする膨大な仏典を漢訳し、中国における法相宗の開祖となった。彼の旅行記は『大唐西域記』として知られている。
問3	答え 1 信仰義認	パウロは、人間は善を望みながらも自らの力では望まない悪を行ってしまう罪深い存在であるとし、律法を遵守することによって自力で救われることは不可能であると考えた。救いは、イエス・キリストが人類の罪を贖うために十字架にかかったことを信じることによるのみ得られるとし、この「信仰によるのみ義とされる」という考え方を信仰義認と呼ぶ。この思想は、後に宗教改革を行ったルターらにも決定的な影響を与えた。
問4	答え 2 魂の三分説	プラトンは人間の魂を、真理を認識する「理性」、意志や勇気の源となる「気概」、肉体的な欲求である「欲望」の3つに分けた。彼は、理性が他の2つの部分を統御し、全体として調和が保たれている状態において「正義」の徳が実現されると考え、過ちや悪徳は理性が他を統御できず調和が崩れた状態であると説明した。
問5	答え 3 逍遙遊	荘子は、人為を排して自然のままに生きる「無為自然」を重んじ、自己の心身を忘れて大自然と一体化する修養を通じて、一切の対立や執着から解放された絶対的自由の境地である「逍遙遊」に達することを理想とした。これは、儒家が説く人為的な道徳（仁義など）による自己束縛からの解放を目指すものである。
問6	答え 4 信仰義認	パウロは、人間が自らの力で律法を完全に遵守することは不可能であり、律法はむしろ人間に自らの罪深さを自覚させる機能しか持たないと考えた。したがって、人間が救われる（神から義とされる）のは、律法の実行という人間の行為によるのではなく、イエス・キリストの十字架による贖いを信じる信仰のみによるという思想を主張した。この思想は、後に宗教改革期においてルターらによって再発見され、プロテスタントの核心的な教理となった。
問7	答え 3 イエス	キリスト教において、この人物は全人類の罪を身代わりに背負って十字架にかかり、死を遂げることで人々を神の怒りから救ったとされる。この犠牲的な役割は、ユダヤ教の伝統において罪の贖いのために捧げられた生贄の羊になぞらえられ、「神の小羊」と表現される。
問8	答え 2 ホモ・レリギオース	人間は古来、人知を超えた存在に対して祈りをささげ、自らの生を意味づけてきた。このような宗教的な営みを行う点に人間の本質を見出す人間観を「ホモ・レリギオース（宗教人）」と呼ぶ。これに対し、理性を特徴とする「ホモ・サピエンス（英知人）」、道具の製作を特徴とする「ホモ・ファールベル（工作人）」、遊びを特徴とする「ホモ・ルーデンス（遊戯人）」などがあり、これらと区別して理解することが重要である。
問9	答え 1 兼愛	墨子は、社会の混乱の原因を人々が自他を区別して互いに愛さないことにあると考え、差別なき愛を説いた。これに対して儒家は、親愛の情から順次広げていく段階的な愛を重視する立場から、この主張を親子の秩序を乱すものとして厳しく批判した。
問10	答え 3 無為自然	儒家が説く仁や義などの道徳を人為的なものとして否定し、作為を捨てて自然のあり方に身を委ねる生き方を指す。これは道家の祖とされる思想家によって提唱され、のちの老荘思想の基盤となった。

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 4 菩薩	大乘仏教では、自己の解脱のみを目指す阿羅漢に対し、すべての衆生を救うために利他行を実践する「菩薩（菩提薩埵）」が理想の修行者とされた。菩薩は、すべての存在が空であることを理解し、自他の区別を超えた慈悲の実践に努める。
問2	答え 2 魂の三分説	プラトンは、人間の魂を理性、気概、欲望の3つの部分に分ける考え方を提唱した。彼によれば、理性が気概を従えて欲望をコントロールし、それぞれが知恵、勇氣、節制という徳を発揮して調和した状態が「正義」である。逆に、欲望的部分が理性的部分や気概的部分を支配し、魂の秩序が乱れることが不正な行為の原因であるとされた。
問3	答え 2 莊子	世俗的な価値の相対性を説き、人為的な区別を捨てて自然のありのままに従う精神的自由の境地を重視した思想家は莊子である。彼は万物を等しいものとみなす「万物斉同」を主張し、老子とともに道家の代表的な思想家となった。
問4	答え 4 無為自然	人為的な道徳や制度を否定し、作為を交えずに自然の理に従って生きることを表す言葉である。老子や莊子ら道家思想の根本的な立場を示しており、儒家の説く人為的な「礼」や「仁」に対抗する概念として提示された。
問5	答え 4 ファリサイ派	イエスが活動した当時のユダヤ社会では、律法の厳格な遵守を主張する人々が主流を占めていた。彼らは律法を守れない人々を罪人として排除したが、イエスはこうした形式的な律法遵守（律法主義）を批判し、律法の本来の精神である愛の実践を説いた。この対立したグループの代表例がファリサイ派である。
問6	答え 1 アヒンサー	ガンディーは、真理の把持（サティヤグラハ）を実践するための不可欠な手段として、生きものを傷つけないというインド伝統の思想である「不殺生・非暴力」を位置づけました。これは、イギリスの塩専売に抗議した「塩の行進」などの大衆運動において、暴力に訴えない抵抗の精神的支柱となりました。
問7	答え 1 莊子	儒家や墨家が提示する聖人の知恵や仁義といった人為的な道徳こそが、人々に首かせ足かせをはめるようなものであり、社会に多くの刑罰をもたらす原因になっていると批判した。彼は、作為を捨てて自然のありのままに従う「無為自然」や、万物を等しく見る「万物斉同」を主張した。
問8	答え 4 ソクラテス	「魂の配慮」を重視し、知恵や真実を求めずに金銭や評判・名誉ばかりを追う生き方を批判したのはソクラテスである。彼は対話（問答法）を通じて人々に「無知の知」を自覚させ、真の知恵を探求することを求めた。
問9	答え 4 墨子	儒家が重視する家族主義的な愛を身内びいきの差別愛として批判し、すべての人を等しく愛する「兼愛」を主張した。また、民衆の生活を圧迫する支配者層の贅沢な礼楽や儀礼を無駄なものとして退ける「非楽」や、侵略戦争を否定する「非攻」を説いた。
問10	答え 2 孟子	人間の本性を善とする性善説を唱え、四端（惻隱・羞惡・辞讓・是非の心）を育てることで四徳（仁・義・礼・智）を実現できるとした。彼は外的な規範である礼楽も、人間の内なる道徳的本性に由来するものと捉え、武力による霸道政治を退けて徳治による王道政治を主張した。これに対し、人間の本性を悪とし、礼による矯正を重視する性悪説を唱えたのは荀子である。
問11	答え 2 理気二元論	宋代の朱熹（朱子）は、宇宙の万物が、万物の根源的な規範・法則である「理」と、万物を構成する物質的な素材・運動のエネルギーである「気」の二つから構成されていると考えた。理は万物に内在する道徳的規範であり、気が運動・結合することで具体的な事物が形成されるとされる。

高校公民プリント（過去問類似）

源流思想と宗教 No.4

名前

得点

/10

問1 16世紀のドイツにおいて、ローマ・カトリック教会の制度的な権威や贖宥状（免罪符）の販売を批判し、人間は善行などの外的行為ではなく、神の恵みに対する内面的な信仰のみによって義とされるという「信仰義認説」を唱えて宗教改革を開始した人物は誰か。 （2026年 全国公立入試 類似）

1. ツヴィングリ 2. ノックス 3. カルヴァン 4. ルター

問2 「ただ生きるのではなく、よく生きること」を重視し、国家から不当な死刑判決を受けた際にも、脱獄という手段で国家に報復することは自らの魂を傷つける不正な行為であるとして拒絶し、法に従って刑死した、古代アテネの哲学者は誰か。 （2016年 全国公立入試 類似）

1. ピタゴラス 2. プラトン 3. ソクラテス 4. エピクロス

問3 春秋戦国時代の諸子百家の一派で、儒家が説く家族愛などの差別的な愛を批判し、自他を区別せずにすべての人を平等に愛し、互いに利益をもたらさ合うべきであると主張した思想家は誰か。 （2012年 全国公立入試 類似）

1. 墨子 2. 莊子 3. 老子 4. 孟子

問4 初期キリスト教において「異邦人の使徒」と呼ばれ、地中海世界への伝道に尽力した人物である。彼は、キリストへの信仰によってすべての人が義とされると主張し、キリストを信じる者の間では、ユダヤ人とギリシア人、奴隷と自由人、男性と女性といった社会的な区別を超えて、皆が神の子として平等に一つであると説いた。この人物は誰か。 （2023年 全国公立入試 類似）

1. マタイ 2. ペテロ 3. ヨハネ 4. パウロ

問5 イエスは、神への愛と隣人愛を説き、その具体的な実践のあり方として「自分にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方もそのように人々に対してしなさい」と教えた。このキリスト教における倫理的指針を何というか。 （2016年 全国公立入試 類似）

1. 黄金律 2. 隣人愛 3. 予定説 4. 原罪説

問6 万物を支配する理性（ロゴス）に従い、情念に惑わされない不動の心（アパテイア）を保つことによって、自然と調和した「よき生」を実現しようとした、ゼノンを祖とするヘレニズム期の哲学学派は何か。 （2016年 全国公立入試 類似）

1. ピュロン派 2. エピクロス派 3. キュニコス派 4. ストア派

問7 ブッダが説いた初期仏教において、人生の苦しみの根本原因は、自己や世界の真実のあり方を知らないことにあるとされる。この苦しみを克服するために、自己を恒常不変の実体として捉える執着を捨て、自己を含むすべての存在が変化してやまないものであると正しく認識する思想を何というか。 （2012年 全国公立入試 類似）

1. 涅槃 2. 無我 3. 無常 4. 縁起

問8 ポリスの崩壊に伴い個人の生き方が模索されたヘレニズム期において、肉体的な苦痛や精神的な不安のない魂の平穏な状態を幸福とし、公的な活動から退いて「隠れて生きよ」と説いた思想家として最も適当な人物を答えよ。 （2021年 全国公立入試 類似）

1. ピュロン 2. エピクロス 3. セネカ 4. ゼノン

問9 古代ギリシアの哲学者の思想に関する記述として、著作『パイドロス』の中で、書かれた言葉は固定化されて自立的な思考力を奪う危険があるのに対し、生きた対話を通じて魂に植え付けられる言葉こそが、真の知識を育て、思考を深める力になると説いた人物は誰か。 （2015年 全国公立入試 類似）

1. プラトン 2. ゼノン 3. ピュロン 4. タレス

問10 13世紀の西欧中世において、トマス・アクィナスはキリスト教神学の体系化を試みた。その際、イスラーム世界を経由してヨーロッパに再導入され、彼の「信仰と理性の調和」という思想に決定的な影響を与えた古代ギリシアの哲学者は誰か。 （2024年 全国公立入試 類似）

1. エンペドクレス 2. アナクサゴラス 3. アリストテレス 4. ヘラクレイトス

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 4 ルター	ローマ・カトリック教会が提示する贖宥状の購入といった外面的・制度的な行為による救済を否定し、聖書の言葉に基づく個人の内面的な信仰を重視した。この思想は、個人の生き方や価値観に根本的な変革をもたらし、近代的な個人主義の成立にも大きな影響を与えた。
問2	答え 3 ソクラテス	「ただ生きるのではなく、よく生きる」ことを説き、魂の配慮を重視した。不当な判決に対しても、脱獄という不正で応じることは自らの魂を汚す悪であると考え、国家の法に従って刑を受け入れた。この態度は、弟子のプラトンが著した『クリトン』などの対話篇に描かれている。
問3	答え 1 墨子	儒家の仁（家族愛などの段階的・差別的な愛）を「別愛」として批判し、自他を区別しない無差別の愛である「兼愛」と、互いに利益を融通し合う「交利」を説いたのは墨子である。彼はまた、戦争を否定する「非攻」や、正義を望む天の意志に従うことを主張した。
問4	答え 4 パウロ	パウロは、イエスの死と復活を信じることによるのみ人は義とされるという「信仰義認」を唱え、ユダヤ律法の遵守に縛られない異邦人への伝道を推し進めた。彼は『ガラテヤの信徒への手紙』などの書簡において、キリストへの信仰のもとでは、民族や身分、性別による差別はなく、すべての信徒が平等に神の子として一体であると説いた。
問5	答え 1 黄金律	イエスは、律法の形式的な遵守を重視するファリサイ派などを批判し、内面的な神への愛と隣人愛の重要性を説いた。その隣人愛の具体的な実践の基準として示されたのが、「自分が他者からしてほしいと望むことを、そのまま他者に対しても行いなさい」という教えであり、これは後に「黄金律」と呼ばれるようになった。これに対し、自分が望まないことを他者に行わないという消極的な倫理（論語の「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」など）は「銀律」と呼ばれることがある。
問6	答え 4 ストア派	ゼノンによって創始されたストア派は、宇宙の理法であるロゴスに従って生きることを重視した。情念（パトス）に支配されない「アパテイア」の状態を理想とし、世界市民（コスモポリタン）としての平等を説いた。
問7	答え 2 無我	ブッダは、人生の苦しみの根本原因を、自己や世界の真実のあり方を知らない「無明」にあるとした。自分という存在は恒常不変の実体（我）ではなく、移り変わる要素の集まりであることを正しく認識することで、執着から離れ、苦を消滅させることができると説いた。この、固定不変の自己は存在しないという思想を「無我」と呼ぶ。
問8	答え 2 エピクロス	ポリス社会が崩壊し、個人の心の安らぎが求められたヘレニズム期において、肉体的な苦痛や精神的な不安のない平穏な状態（アタラクシア）を追求したのがエピクロスである。彼は政治的な喧騒を避け、友人たちと「エピクロスの園」と呼ばれる庭園で共同生活を送り、「隠れて生きよ」と説いた。これに対し、理性を重視し情念の克服（アパテイア）を説いたのはゼノンである。
問9	答え 1 プラトン	『パイドロス』において、文字（書かれた言葉）の限界を指摘し、対話（問答法）の重要性を説いたのはプラトンである。彼は師であるソクラテスの対話の姿勢を継承し、固定化された文字よりも、生きた対話を通じて魂に真理を植え付けることこそが真の知恵（フィロソフィア）への道であると考えた。
問10	答え 3 アリストテレス	トマス・アクィナスがスコラ哲学を大成するにあたり、大きな役割を果たしたのがアリストテレス哲学である。当時、十字軍運動などを通じてイスラーム世界からアリストテレスの著作がラテン語に翻訳されて西欧に再流入し、キリスト教の信仰と理性的な哲学をいかに調和させるかが大きな課題となった。

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 2 莊子	人間による人為的な価値判断（分別）を否定し、万物を等価とみなす「万物斉同」を説いたのは莊子である。彼は、社会規範から自由になり、天地自然と一体化した「真人」を理想の人間像とした。老子とともに道家（老莊思想）を代表する人物である。
問2	答え 2 孟子	性善説を唱えたこの思想家は、支配者が仁義の徳によって民を治める「王道政治」を主張した。そして、支配者がこの徳を失った場合には、天命が改まって王朝交代が起こるといった易姓革命の思想を唱え、武力による支配である「霸道」を厳しく批判した。
問3	答え 3 デカメロン	イタリア・ルネサンス期の作家ボッカチオが著した『デカメロン』（十日物語）の第一日第三話には、三つの指輪の比喻が登場する。これは、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の三つの律法は、それぞれの信者にとって真実であり、互いに他を否定できないという宗教的寛容の精神を表現したものである。この比喻は、のちにドイツの啓蒙思想家レッシングの戯曲『賢者ナータン』にも取り入れられた。
問4	答え 3 ソフィスト	アテネの民主政の発展に伴い、民会や法廷で他者を説得するための弁論術の需要が高まった。これに応じて、謝礼を受け取って弁論術や弁論に必要な知識を教える職業教師たちが現れた。彼らは普遍的な真理を否定し、個人の主観や立場によって真理は異なると主張したため、のちにソクラテスらから厳しく批判された。
問5	答え 2 ヴァルナ	バラモン教では、司祭（バラモン）、武士（クシャトリヤ）、庶民（ヴァイシャ）、隷属民（シュードラ）という4つの身分が厳格に定められていた。仏教の開祖は、この生まれによる身分制度を否定し、すべての人間は平等であり、自らの行為によってのみ清らかになると説いた。
問6	答え 2 クルアーン	イスラーム教の信仰筒条である「六信」の一つに「啓典への信仰」がある。その中で最も重要とされるのが、神が預言者ムハンマドに授けた啓示をアラビア語で記録した書物である。これは単なる信仰の書にとどまらず、ムスリムの社会生活や法秩序を規定する最高権威の法源としても位置づけられている。
問7	答え 1 莊子	莊子は、言葉が事物を区別し固定化することで、万物の一体性である「道（タオ）」という究極の真理を損なってしまうという言葉の限界を強く意識していた。しかし、言葉を完全に放棄するのではなく、寓話（ぐうわ）や重言（じゅうげん）といった文学的・逆説的な表現を用いることで、人々の固定的な言語認識を揺さぶり、無為自然の境地へと導こうとした。
問8	答え 1 莊子	生と死を自然の大きな循環（気の変化）の一部として捉え、生を「仮の宿」に、死を「虚無への帰還」とみなして、生への執着や死への恐怖といった相対的な価値判断を超越することを説いた。万物斉同の立場から、作為を排して自然のありのままに従う無為自然を重んじた道家の代表的な思想家である。
問9	答え 2 エピクロス	ポリスの市民共同体が衰退したヘレニズム時代には、国家の枠組みを超えて個人の心の平穏を求める哲学が流行した。その代表的存在である彼は、政治的な名誉や肉体的な享楽を避け、友人たちと「庭園」に集い、静かに生きることを理想とした。